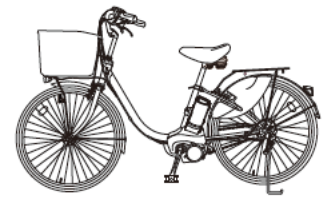


組立説明書

電動アシスト自転車

品番 BE-ELE433 BE-ELD433
BE-ELE633 BE-ELD633 ※特注車含む



BE-ELD633

組み立てをされる方へ

- 組立説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に組み立ててください。特に「安全上のご注意」は、組み立て前に必ずお読みください。組立説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しないで組み立てられたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その組み立てが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 自転車安全整備士、自転車技士(自転車組立整備士)、もしくは同等の技術を有する方が組み立て・点検・整備を行ってください。
- 工場より出荷された自転車は社内規格によって正常かつ確実な組み立てを行っており、梱包も損傷することの無いよう配慮しております。しかし、輸送中の振動・衝撃により金属部分の接触面などにナジミを生じ、緩むことも考えられます。車輪の振れ、各部締め付けねじ類を点検・調整の上、完全な商品としてお客様にご販売くださるようお願いいたします。
- 前後タイヤの空気圧の点検をお願いします。
- 点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。
- 次回の点検からも取扱説明書の裏表紙にある点検・整備チェックリストをもとに確認してください。
- メンテナンスする際にも組立説明書が必要になります。ご販売店様で保管することをおすすめします。

※説明で、図などが多少異なりますが取り扱いおよび組み立て方はほぼ同じです。また、上記記載品番を基本とする特注車(部品の一部が異なる機種)も組み立て方はすべて共通です。

もくじ

安全上のご注意	表紙～ 2	スピードセンサーの動作確認	11
組立方法	3～ 10	未組み付け部品明細表	裏表紙

安全上のご注意 必ずお守りください


人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。


■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

警告 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

注意 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

 してはいけない内容です。

 実行しなければならない内容です。

安全上のご注意

必ずお守りください

警告

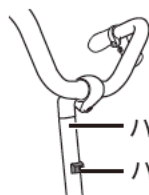
けがなどを防ぐために



禁止

■ハンドルステムおよびシートポストは、はめ合わせ限界標識以上引き上げない
(ハンドルステムおよびシートポストの折れにより、転倒によるけがのおそれ)

■ハンドルステムのハイトストッパーを外して、ハンドルステムを一番下まで下げない



ハンドルステム
ハイトストッパー

(固定が不完全になる場合があり、転倒や衝突によるけがのおそれ)

■シートポストにはグリスなどの潤滑剤を付けない
(シートポストが回転し、転倒によるけがのおそれ)



■ライトコードは、損傷しないよう注意して組み付ける
(ライトコードが損傷した状態で使用した場合、ショートして発熱・発火のおそれ)



■ロックナットは確実に締め付ける
(ブレーキの調整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれ)

■前車輪脱落防止金具は必ず組み付ける
(組み付けないと車輪が外れて転倒によるけがのおそれ)

■グリップは、グリップ内側とハンドルバー表面の水分や油脂分をよくふき取り、奥まで差し込んで組み付ける
(水、油脂類を付けるとグリップが脱落し、転倒によるけがのおそれ)

■ブレーキグリスの補給には、必ずローラーブレーキ専用グリス(NBP002)を使用する
(制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれ)
⇒補給する目安は1回約5gです。

■チェーン調整時、適正寸法を守る
(チェーンが外れ、転倒によるけがのおそれ)

■ワイヤ・コード類は、指定の場所、指定のコードクリップなどで固定する
(ワイヤ・コードを車輪などに巻き込んで、急激にロックし、転倒によるけがのおそれ)

注意

けがなどを防ぐために



■ヒゲ状のバリを取り除く
(バリによるけがのおそれ)
⇒ペダルをクランクに締め付けた際に、ヒゲ状のバリが発生することがあります。バリが残らないように、工具(ラジオペンチ・ニッパーなど)で取り除いてください。このとき、けがをしないよう注意してください。



■インナーワイヤの先端には、必ずインナーワイヤキャップを組み付ける
(組み付けないとけがのおそれ)

■六角棒レンチは六角穴付きボルトの奥まで確実に差し込み、締め付けを行う
(はずれてけがをするおそれ)

お願い

●さび付きによる固着を防止するためハンドルステムの挿入部には薄くグリスを塗ってください。

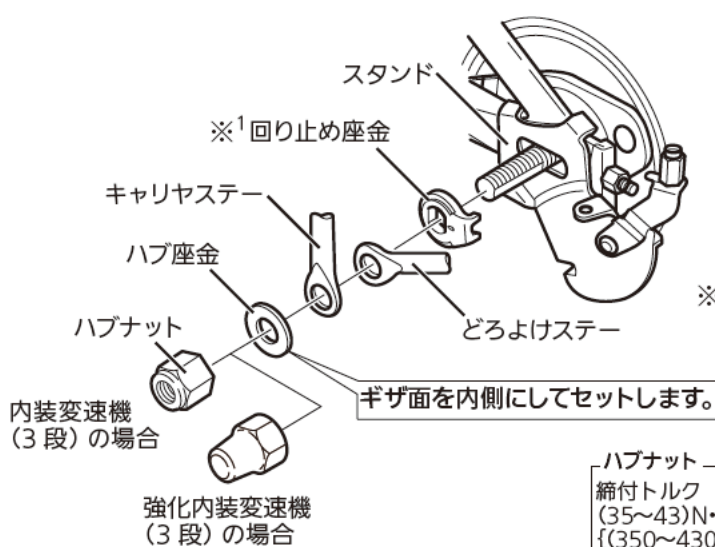
お知らせ

●本紙には納品時に組み付け調整済の部品についても、再調整の場合の参考として、組み付け・調整方法を載せてあります。

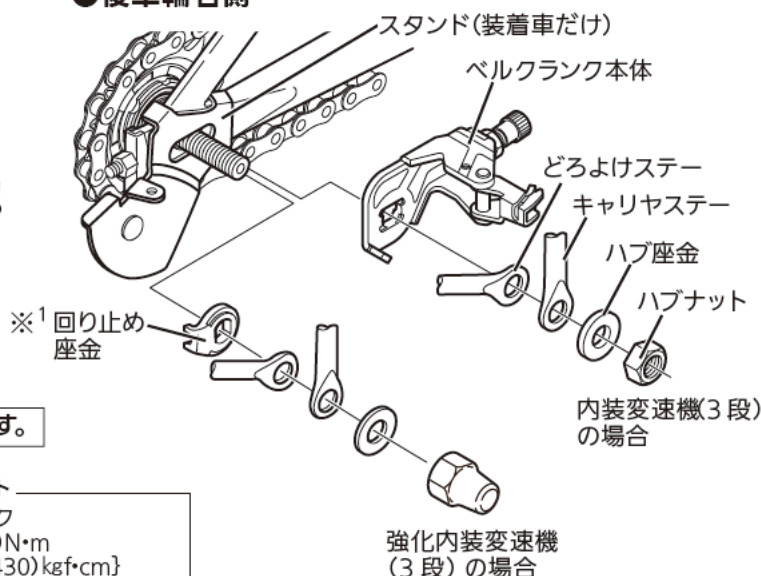
組立方法

■後車輪部、スタンドの組み付け

●後車輪左側



●後車輪右側



回り止め座金に関するご注意

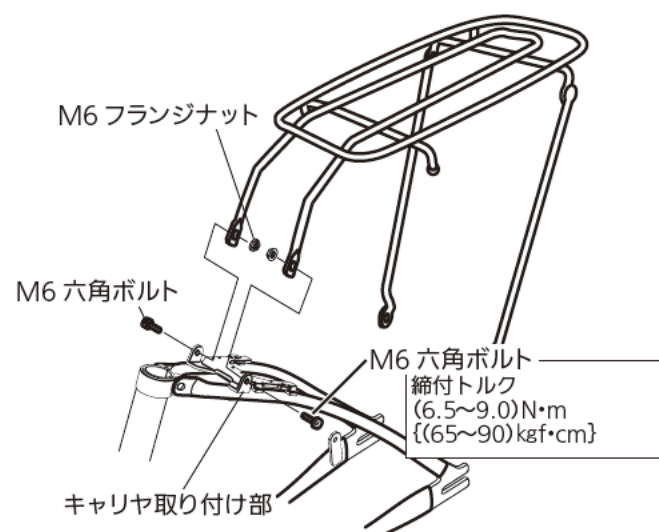
※¹ 回り止め座金の刻印 / カラーについて

変速機	車種	回り止め座金	
		刻印 / カラー	
		左用	右用
内装変速機 (3段)	ELD433/633	0 / ブラック	なし
強化内装変速機 (3段)	ELE433/633	6L / ホワイト	6R / シルバー

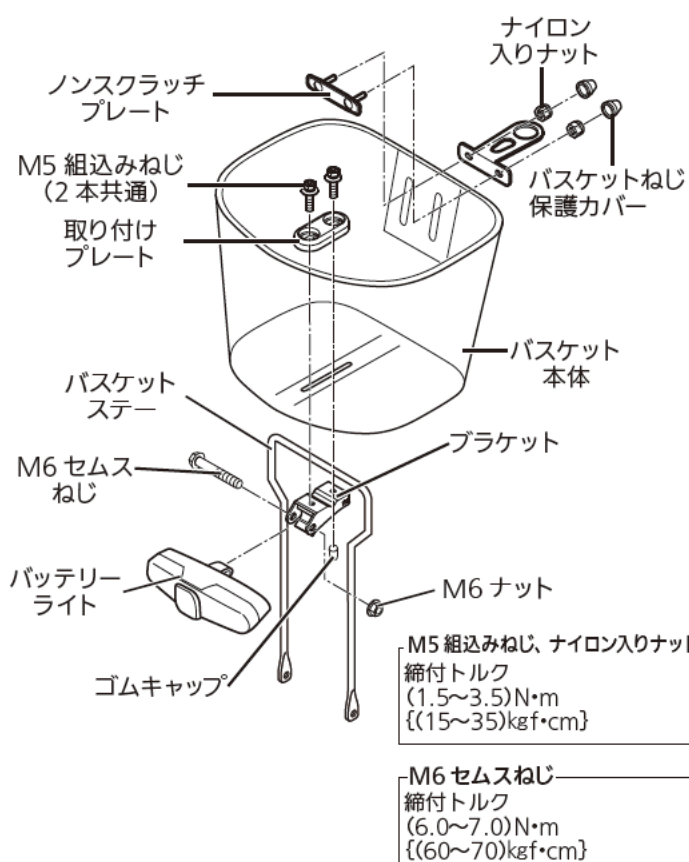
- 突起部をスタンド側にセットします。
- 突起部をスタンドの溝に確実に入るように、ハブ軸の前側または後側に入れます。
- スタンドをハブ軸に取り付ける場合は、スタンドの外側から回り止め座金を取り付け、突起部がスタンドの溝に入るようにセットします。

■リヤキャリアの組み付け

リヤキャリアは必ずキャリア取り付け部の内側に取付けてください。(サークル錠の操作を容易にするため)

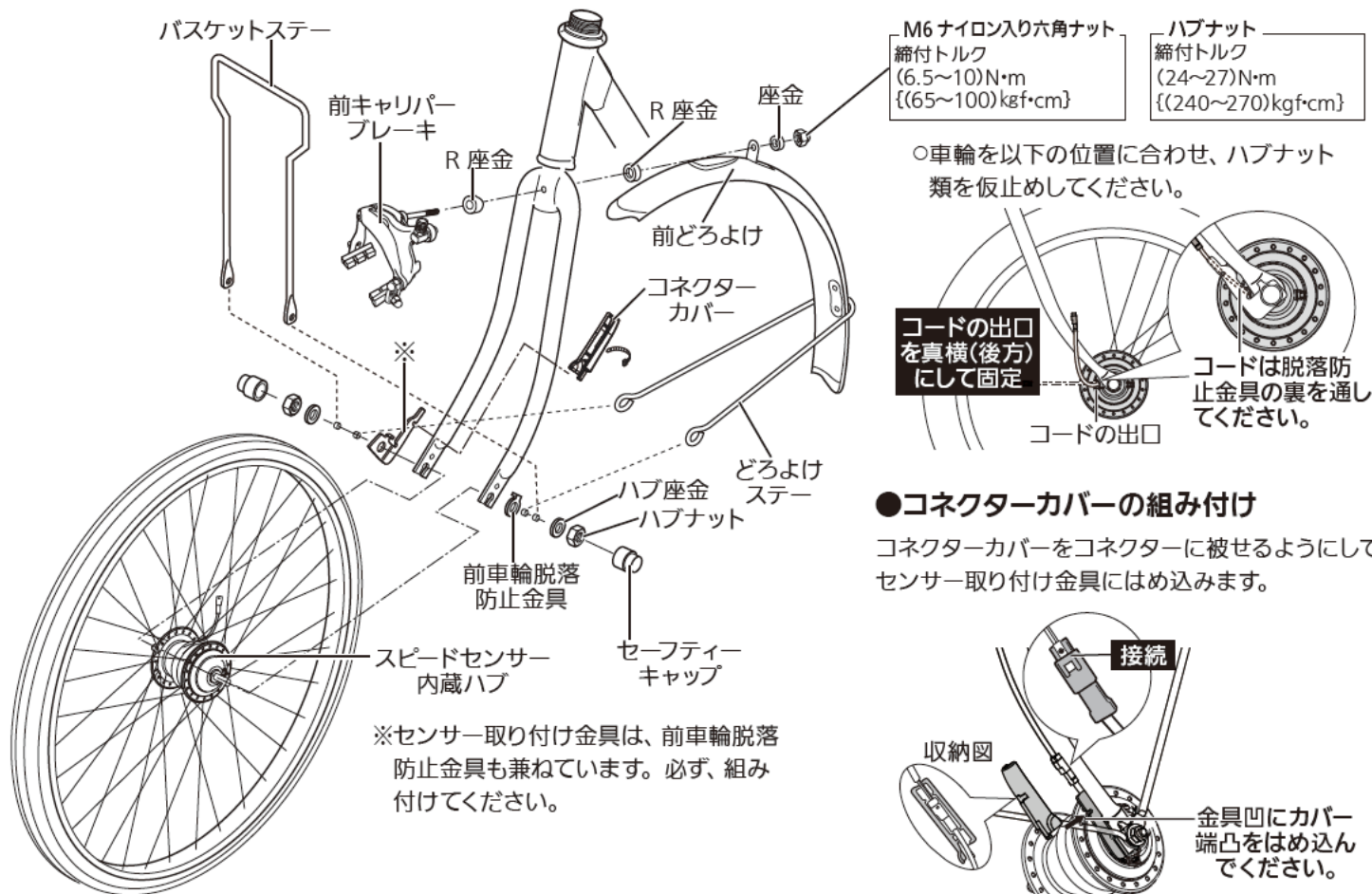


■バスケット、バッテリーライトの組み付け

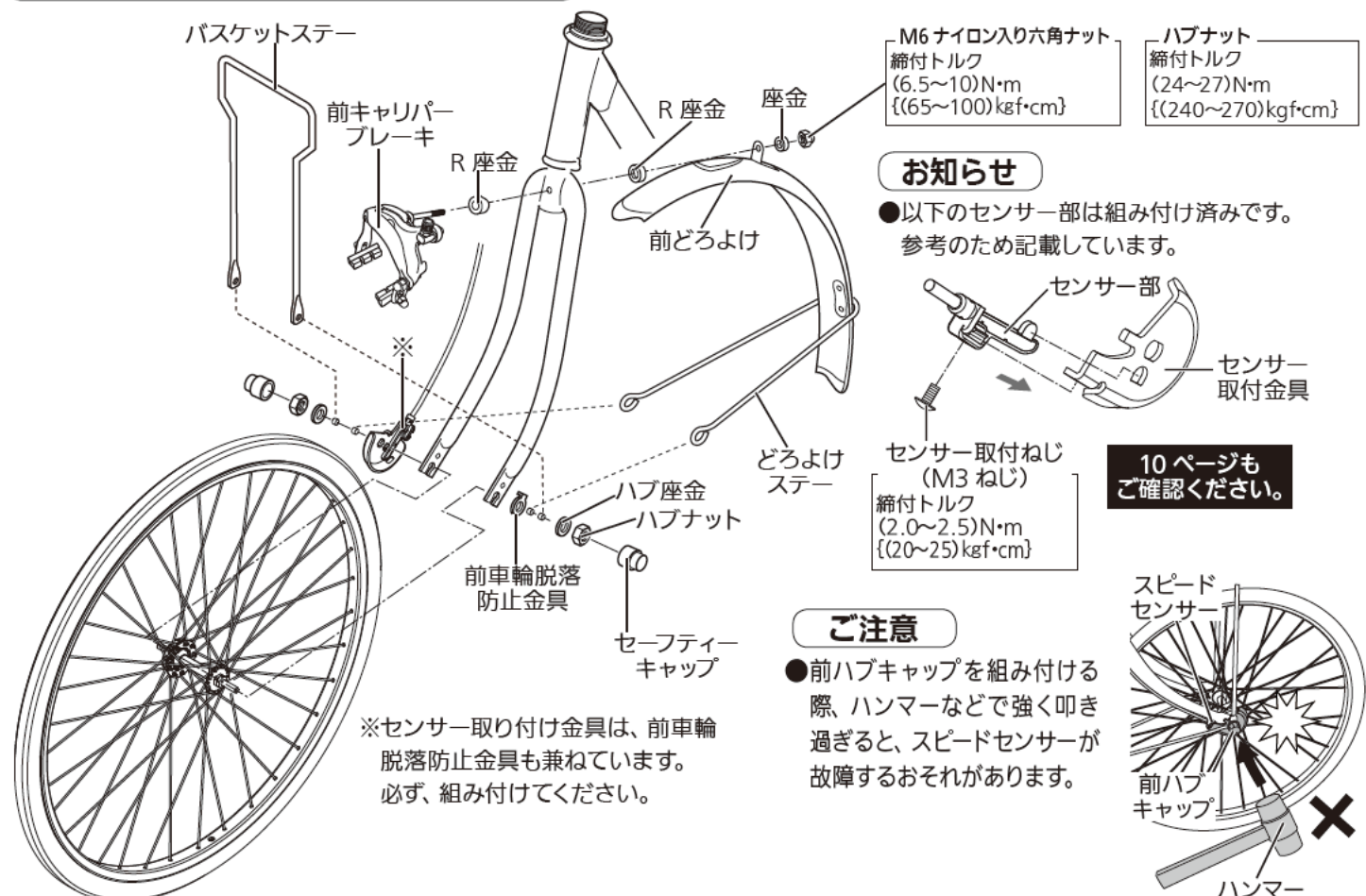


■前車輪、前キャリアブレーキなどの組み付け

<スピードセンサー内蔵ハブの場合>



<コンパクトスピードセンサーの場合>

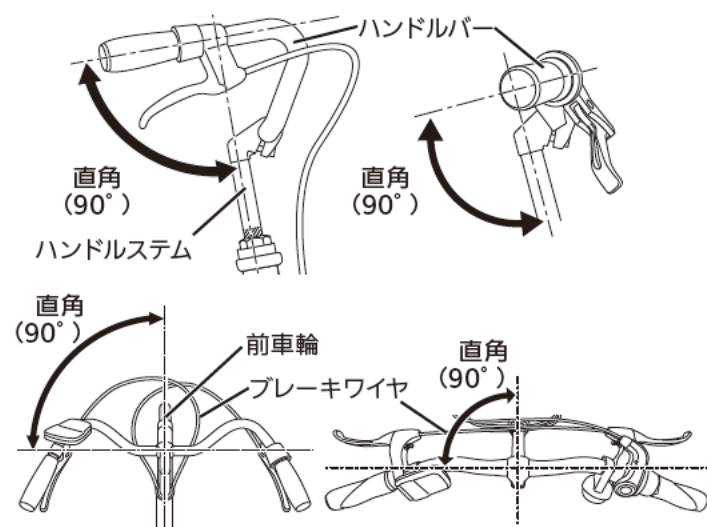


■ハンドルバー、ハンドルステムの組み付け

○ハンドルバーとハンドルステムの角度がほぼ直角になるように調整し、はめ合わせ限界標識がみえなくなるまで挿入して組み付けます。

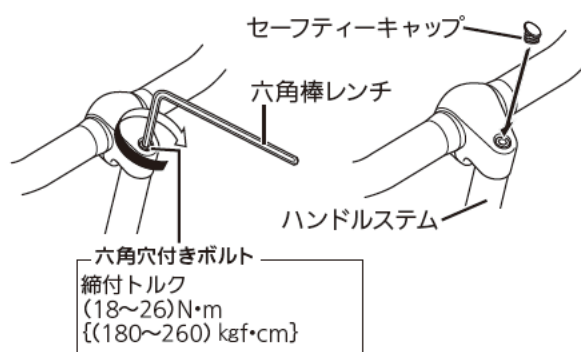
<中上がりの場合>

<オールラダーの場合>



締付トルク
(18~26)N・m
{(180~260)kgf・cm}

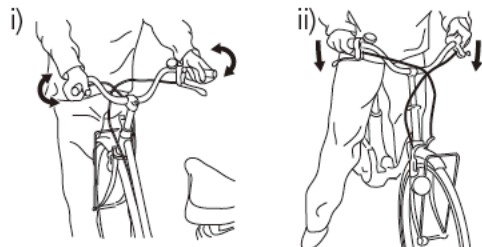
○六角棒レンチ(6 mm)で六角穴付きボルトを締め付けて、セーフティーキャップを取り付けます。



六角穴付きボルト
締付トルク
(18~26)N・m
{(180~260)kgf・cm}

○締め付け後、以下の i)、ii) で固定が十分か確認します。

- 前車輪を両足ではさみ、両手で握り部を強く左右に回して 150 N{15 kgf}、ハンドルバーが前車輪に対して回転しないことを確認してください。
- 自転車にまたがり、ハンドルバー握り部を持ち、内側に絞り込むように体重をかけ左右共 220 N{22 kgf}、ハンドルバーが回転しないことを確認してください。

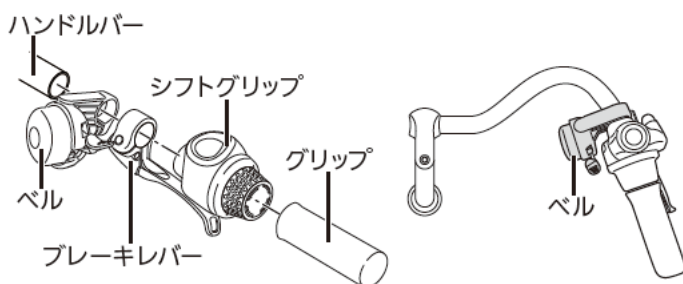


- iii) ハンドルの調整、固定後ブレーキレバーを握ってブレーキが利くことを確認してください。

■ハンドル周りの組み付け

●ハンドル右側

○図のような順で組み付けてください。短いグリップは、右側に使用してください。



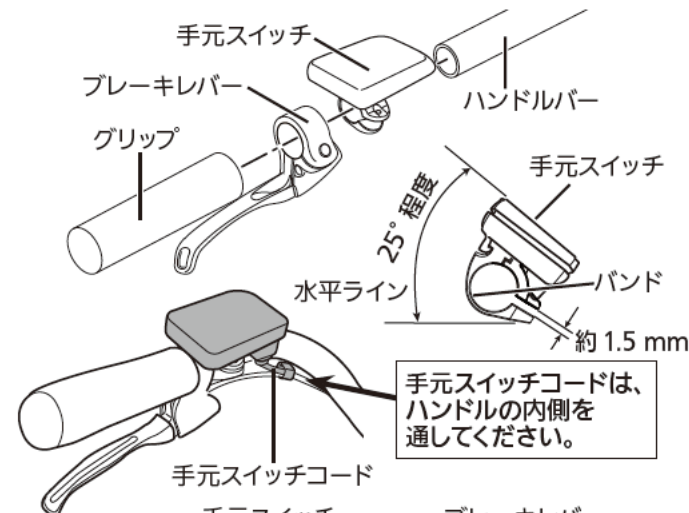
ベル
締付トルク
(0.8~1)N・m
{(8~10)kgf・cm}

ブレーキレバー
締付トルク
(6~10)N・m
{(60~100)kgf・cm}

シフトグリップ
締付トルク
(2.5~4.0)N・m
{(25~40)kgf・cm}

●ハンドル左側

○手元スイッチはブレーキレバー側に寄せて組み付けてください。また、バンドのすき間が約 1.5 mm になるように締め付けてください。



手元スイッチ
締付トルク
(0.3~0.4)N・m
{(3~4)kgf・cm}

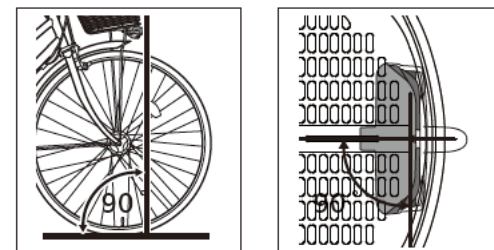
ブレーキレバー
締付トルク
(6~10)N・m
{(60~100)kgf・cm}

ご注意

- 手元スイッチの取り付けねじは締めすぎると、変形・外観不良の原因になります。特に、電動ドライバーで締め付けを行う場合、設定トルクによっては、ナットが共回りしてしまうことがありますので、十分注意してください。

■フロントリフレクターの角度調整

○組み付け時、反射面が地面および前車輪に対して直角になるように角度を調整してください。



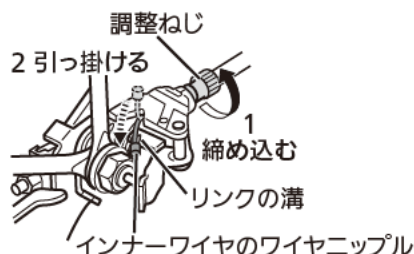
■ 変速ワイヤの組み付け・調整

<内装変速機(3段)の場合>

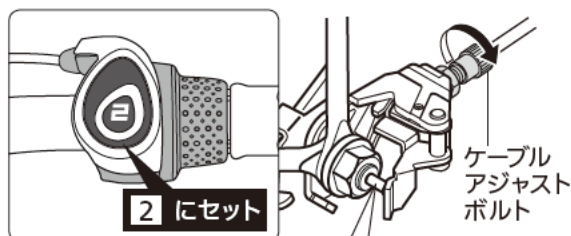
- ①シフトグリップを①の位置にセットします。
- ②ハブ軸にプッシュロッドを差し込みます。



- ③ベルクランク本体の調整ねじを締め込んだ状態で、インナーワイヤを調整ねじに通し、インナーワイヤのワイヤニップルをリンクの溝に引っ掛けます。



- ④シフトグリップを②の位置にセットします。次に調整ねじを反時計方向に回して、プッシュロッドの溝(赤線)とハブ軸の端とが一致するように合わせます。



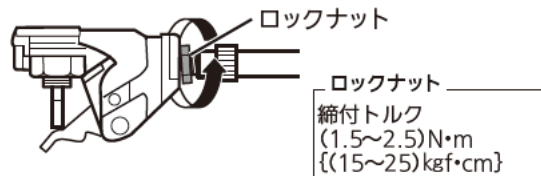
クランクを回しながら、シフト操作を2~3回繰り返し、実際に変速していることを確認します。

再びシフトグリップを②の位置にセットし、プッシュロッドの溝(赤線)とハブ軸の端とが一致していることを確認してください。

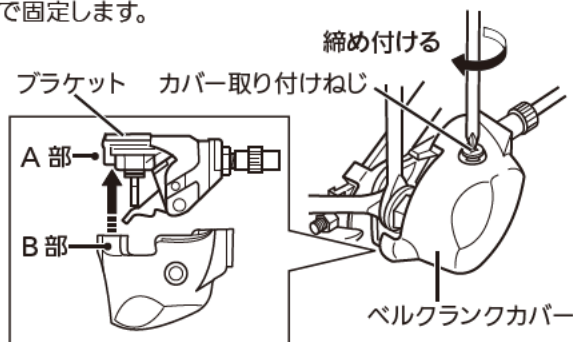
お願い

- もしピタリ一致していない場合は、調整ねじを回して微調整をしてください。

- ⑤ベルクランクの調整をしたあと、ロックナットで調整ねじを固定します。

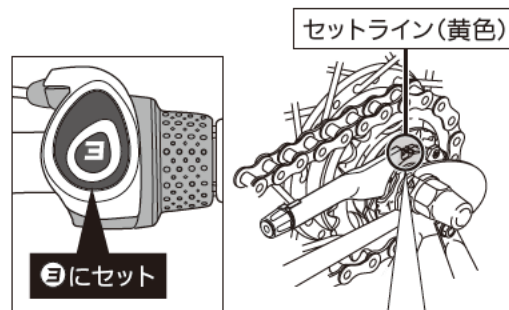


- ⑥ブラケットのA部とベルクランクカバーのB部を合わせ、ブラケットにベルクランクカバーをセットし、カバー取り付けねじで固定します。



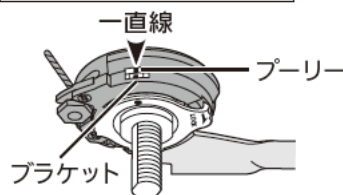
<強化内装変速機(3段)の場合>

- シフトグリップを動かして①→③にセットします。この状態で、カセットジョイントのブラケットと、プーリーのセットライン(黄色)が一致していることを確認してください。



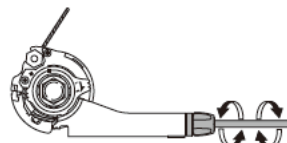
カセットジョイントのセットライン(黄色)は、上部と下部の2か所にあります。見やすい方をご利用ください。

自転車が正立しているとき

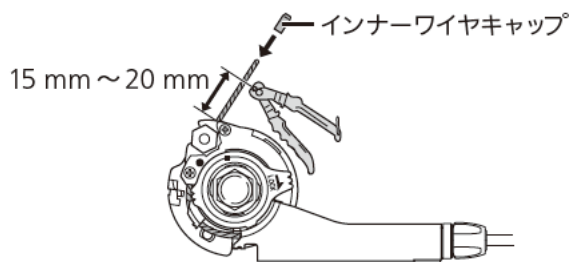


お知らせ

- もし、セットライン(黄色)が一致していない場合、カセットジョイントの調整ねじを回して、セットラインを合わせてください。その後、シフトグリップをもう一度③→①へ、そして①→③に動かして、セットライン(黄色)が一致していることを再度確認してください。



- ②カセットジョイントの調整後、余分なインナーワイヤを切断します。その後、インナーワイヤキャップを取り付けます。

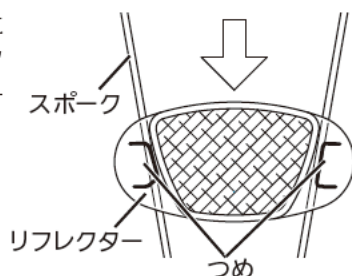


お願い

- インナーワイヤ先端は外側に曲げてチェーンとのすき間を設けてください。

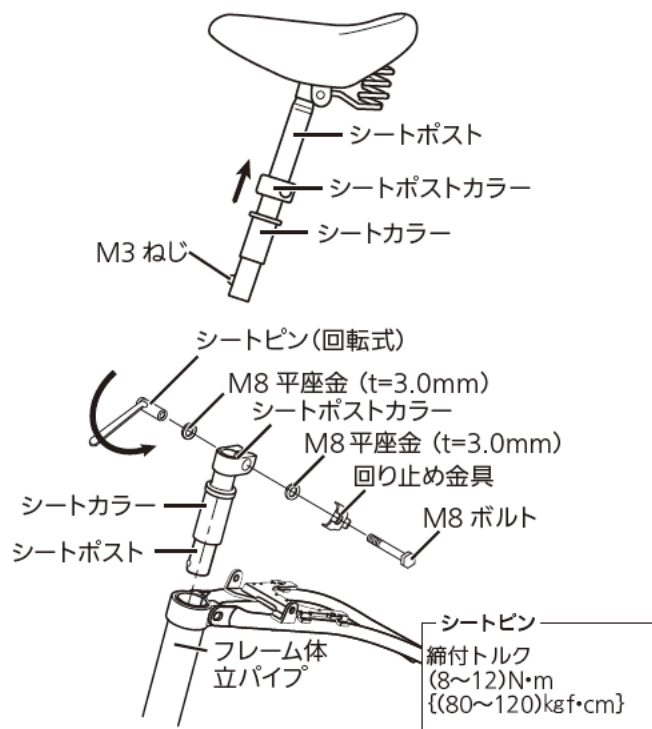
■スポークリフレクターの組み付け

- リフレクターの内側の溝にスポークを入れ、リフレクターのつめの内側にスポークが入るまで押し込みます。



■シートピン、シートポストの組み付け

- シートポストにシートポストカラー、シートカラーを通し、フレーム本体の立パイプに挿入してください。
※シートポスト抜け防止のため、シートピン、シートポストカラーを取り外さないと、シートポストは抜けません。



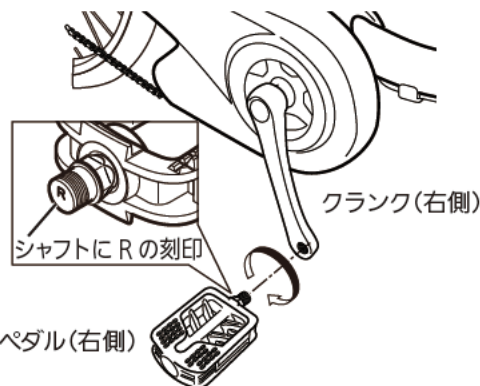
お知らせ

- 上記のトルクでシートポストは十分固定されます。締め過ぎるとシートクランプが破損するおそれがあります。

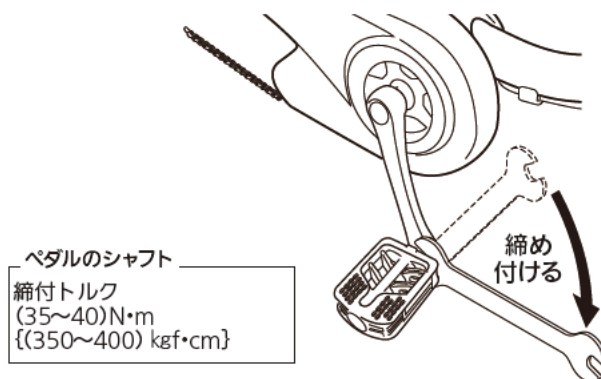
■ペダルの組み付け

- ※ペダルは左右でねじ方向が違います。右ペダルは右ねじ、左ペダルは左ねじです。

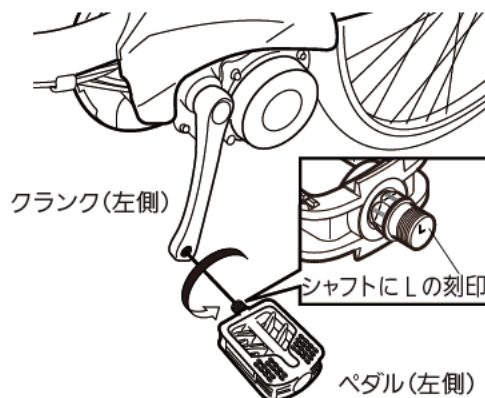
- ①クランク(右側)にペダル(右側)のシャフトを時計方向に回し、ねじ込みます。



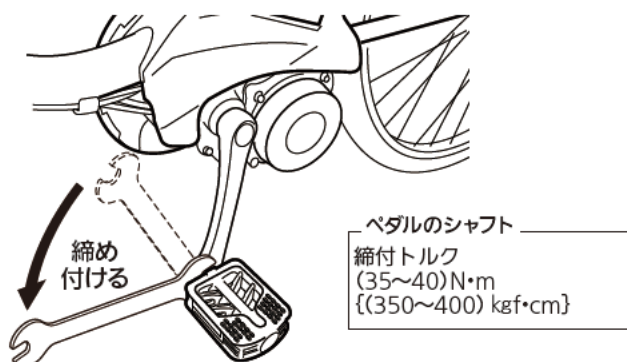
- ②ペダルレンチで締め付けます。



- ③クランク(左側)にペダル(左側)のシャフトを反時計方向に回し、ねじ込みます。



- ④ペダルレンチで締め付けます。

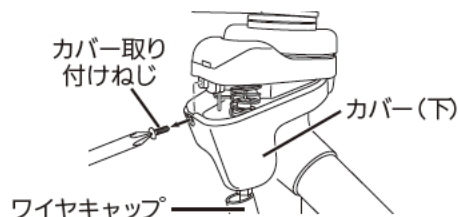


- ※最後の締め付けは、約 45° 上方の点線の位置より、矢印方向に回して固定してください。
(走行時のクランク回転方向が、ペダル締め付け方向です。)

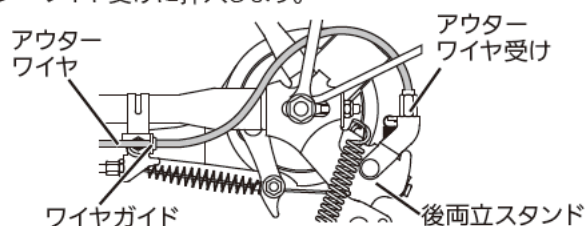
<スタピタ2 装着車の場合>

■「スタピタ2」の組み付け・調整

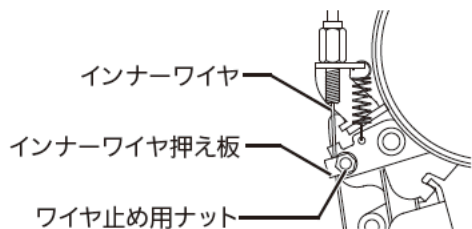
- ①ワイヤキャップを下にずらし、カバー(下)を固定しているカバー取り付けねじを緩めて外します。



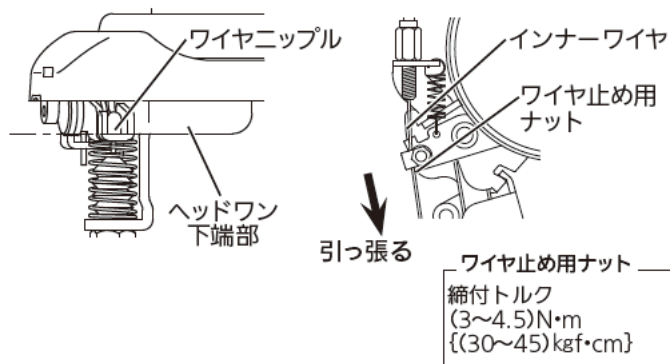
- ②アウターワイヤをワイヤガイドに通し、後両立スタンドのアウターワイヤ受けに挿入します。



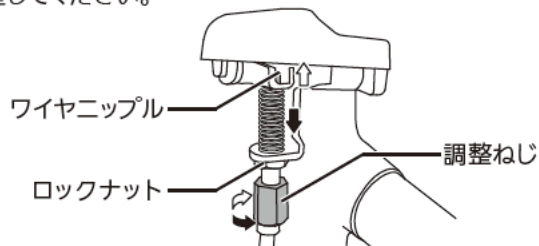
- ③後両立スタンド内側のワイヤ止め用ナットを緩め、インナーワイヤ押え板にインナーワイヤをはさみます。



- ④ヘッドワン下端部とワイヤニップル下端部が一直線になるように、スタンド側のインナーワイヤを引っ張り、ワイヤ止め用ナットを締め付けて固定します。

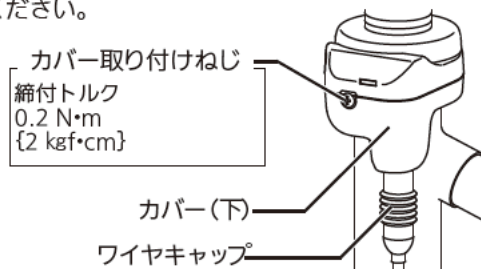


- ⑤スタンドを数回作動してハンドルロック機構が正しく機能しているか確認してください。正しく機能しない場合は調整ねじで調整してください。



- ⑥調整ねじで調整しきれない場合はインナーワイヤを組み直してください。調整後は必ずロックナットを締め付けてください。

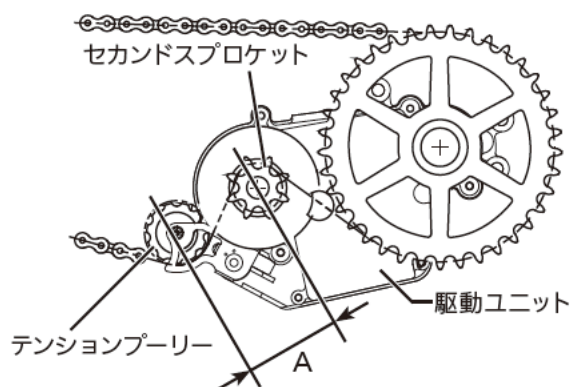
- ⑦カバー(下)を組み付けてワイヤキャップを調整ねじに取り付けてください。このときカバー取り付けねじの締めすぎに注意してください。



- ⑧スタンド側の余分なインナーワイヤを切断し、インナーワイヤキャップをカシメてください。

■チェーンテンション(張り)の調整

- 出荷時、チェーンの張りは調整済みです。
(A寸法: 60 mm ~ 70 mm)
- メンテナンス時(チェーンが伸びた状態)にチェーンの張りをチェーン引きにて調整する場合、A寸法が 65 mm ± 3 mm が適正寸法です。適正寸法を守らないと、音鳴り、チェーン飛びやチェーン外れの原因になります。



●チェーンについて

お願い

- この自転車は電動アシスト自転車用に耐久性を高めた強化チェーンを使用しています。チェーンを交換する際は、必ず純正チェーンを使用してください。



■ブレーキの調整

●ブレーキレバーの開き調整

ブレーキレバーの開き調整は、ブレーキレバーを開放した状態で、レバー開き調整ねじを回して、操作しやすい位置(ブレーキレバーの引き始めに指の第一関節から第二関節がかかる位置が推奨)に調整する。

●ブレーキレバーを強く握って、レバーとグリップが付く場合は遊びを少なくして再調整してください。



お知らせ ●レバー開き調整ねじの無い機種もあります。

●ブレーキレバーの引きしろ調整

ブレーキレバーの遊びが約 15 mm になるよう、前後ブレーキの引きしろをワイヤ調整ねじで調整する。



お願い

- 上記の調整範囲は目安です。調整後は必ずブレーキテストをしてください。
- 前後車輪の回転が重くないことを確認してください。

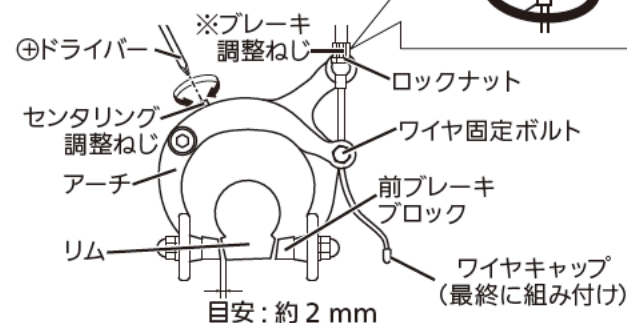
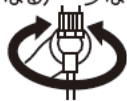
●前キャリパーブレーキの調整

- ①アーチを握った状態で、ワイヤをワイヤ固定ボルトに固定してください。
- ②ロックナットを緩める。
- ③ブレーキ調整ねじを回す。
- ④センタリング調整ねじで、リムと前ブレーキブロックの隙間が左右均等になるように調整する。
- ⑤走行してブレーキの利きを確認する。
- ⑥ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。

ワイヤ固定ボルト
締付トルク
(4.5~10)N・m
{(45~100)kgf・cm}

ロックナット
締付トルク
(1~2)N・m
{(10~20)kgf・cm}

締める (ブレーキの遊びが多くなる)
緩める (ブレーキの遊びが少なくなる)

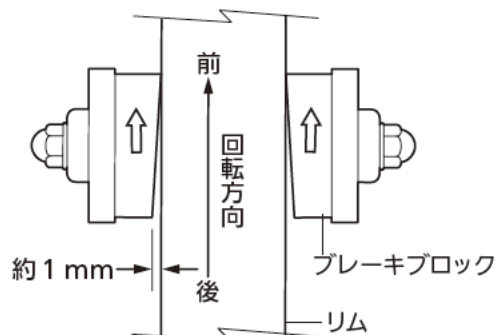


●前後ブレーキのブレーキワイヤ末端処理

○安全のためワイヤ末端にはワイヤキャップをカシメてください。

●前ブレーキブロックについて

○ブレーキブロックに方向性があります。ブレーキを上側から見て、矢印を進行方向に合わせてください。ブレーキブロックがテーパ状になっており、後側に約 1 mm のすき間ができ、異音防止の効果があります。

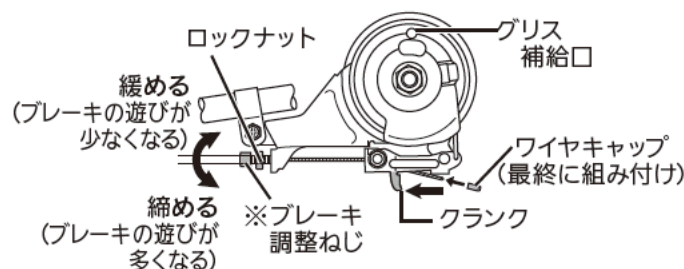


●後ブレーキの調整

- ①ブレーキ調整ねじのロックナットを緩める。
- ②クランクを押しながら、ブレーキ調整ねじを回す。
- ③走行してブレーキの利きを確認する。
- ④ブレーキ調整ねじが緩まないよう、

ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。

ロックナット
締付トルク
(1~2)N・m
{(10~20)kgf・cm}

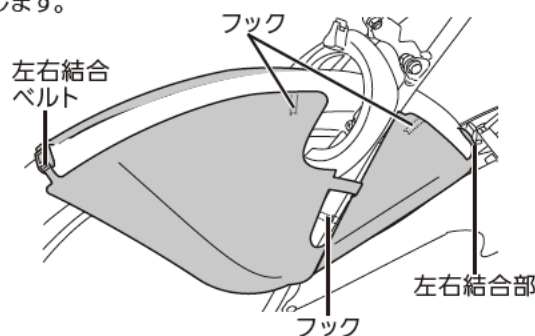


お願い

- 確実な制動力を得るために、通常約 1~2 年に 1 回程度はローラーブレーキ専用グリスを補給してください。
- ブレーキをかけた場合、音鳴りがしたり、ブレーキの利きが異常に強すぎたりしたとき、ブレーキグリスの不足が考えられます。ローラーブレーキ専用グリスを補給してください。

■ドレスガードの取り付け

- ①左右結合部を前側にし、組み付け用フックがシートステーの位置に合うように配置します。
- ②どろよけ内側にドレスガード切り欠き部(後輪サークル錠用逃がし部)の前後にあるフックを引っ掛けます。
- ③後側の左右結合ベルト部を押し込み、がたつきの無いように調整します。

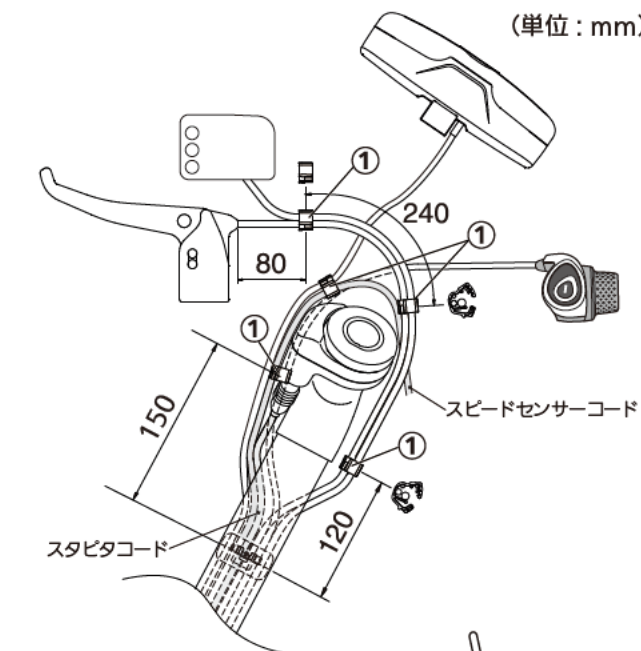


■ワイヤガイド類の組み付け

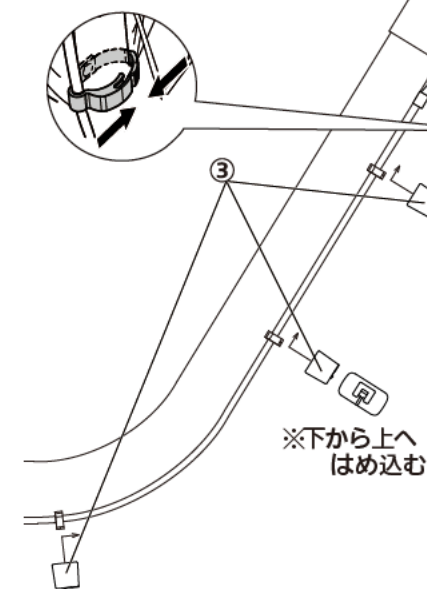
○ワイヤ類がフレームに沿った状態で、ワイヤガイドをフレームダボに被せるようにして、ワイヤを固定します。コードのたるみは、ハンガー側に引きよせて、本体カバーの中に押し入れます。

(単位: mm)

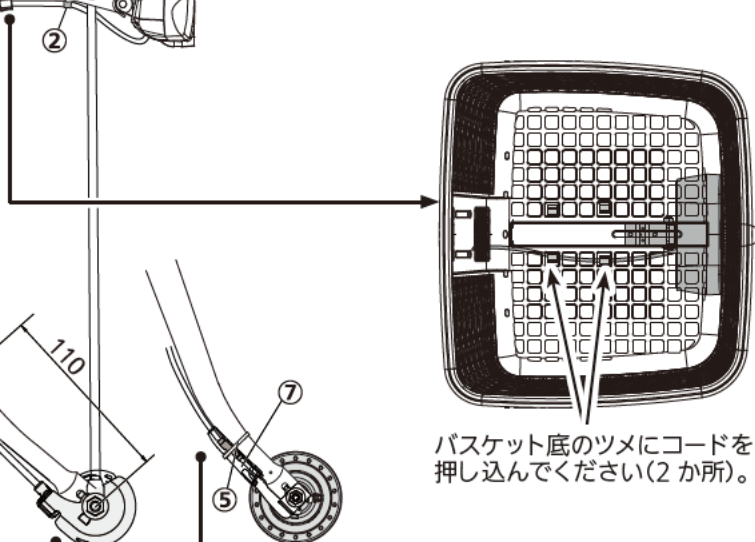
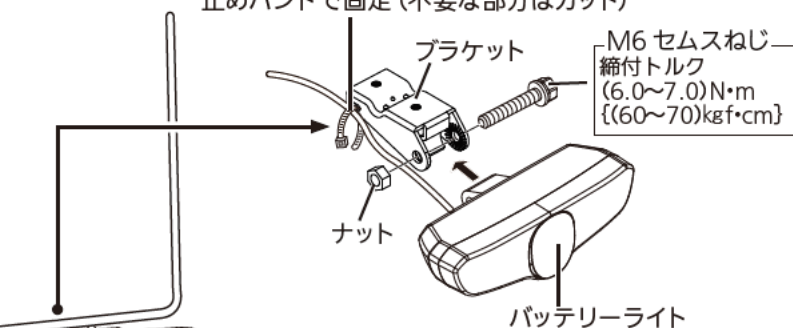
ワイヤガイド類一覧 / 車種	ELE	ELD	ワイヤガイド類一覧 / 車種	ELE	ELD
①	5 個	5 個	⑤	1 本	1 本
②	1 本	1 本	⑥	-	1 個
③	3 個	3 個	⑦	1 個	-
④	2 個	2 個			



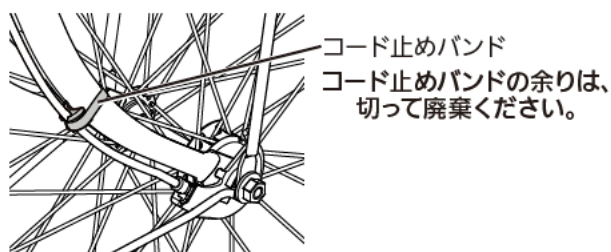
ワイヤ類 (ブレーキワイヤ 変速ワイヤなど)
電線コード類 (バッテリーライトコード 手元スイッチコード)



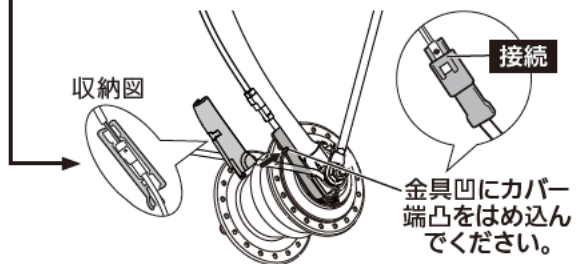
コードはブラケットの外側を通し、コード止めバンドで固定 (不要な部分はカット)



<コンパクトスピードセンサーの場合>



<スピードセンサー内蔵ハブの場合>



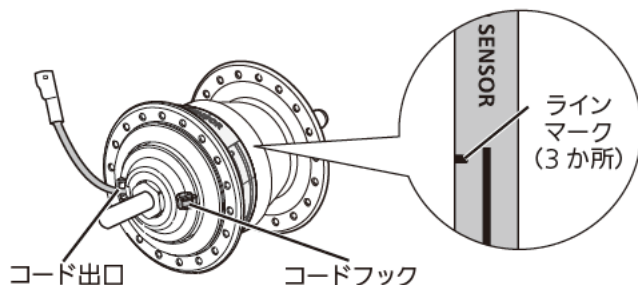
■スピードセンサーの動作確認

お願い

- 必ず前車輪の1回転分の表示切替わりを確認してください。また、回転の途中で反転などさせないでください（正しく確認できなくなる場合があります。⇒下記、●リセット方法を参照）。

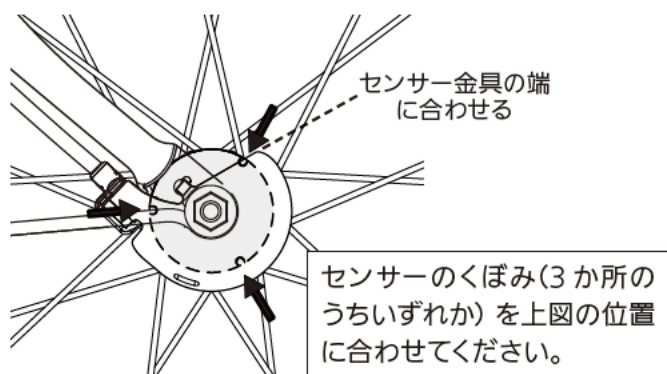
- ①自転車を停車し、電源を切ります。
- ②前車輪を回転させ、下図の位置に合わせます。

<スピードセンサー内蔵ハブの場合>.....



ラインマーク(3か所)のうち、いずれかをコードフックまたはコード出口に合わせてください。

<コンパクトスピードセンサーの場合>.....

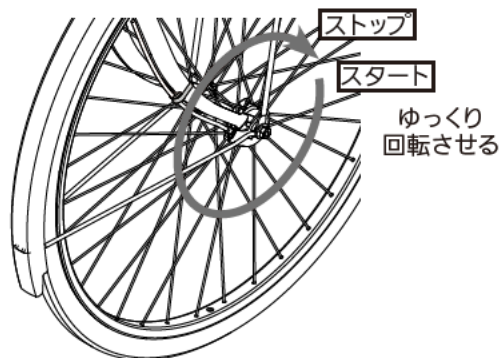


- ③アシスト切替ボタンの△▽ボタンを同時に押しながら、電源ボタンを押してください。エコナビランプが点滅した状態で起動します。この表示は動作確認モードに入ったことを示しています。

エコナビランプ(1秒間に1回点滅)



- ④前車輪を浮かせて、ゆっくりと1回転させ、手元スイッチの表示が次のような表示をしているか確認してください。(必ず、1回転で止めてください)。



●確認のポイント

前車輪を回転させると、液晶表示部の2桁目が「H」と「L」の表示を交互に繰り返しながら1桁目の数字が「0」～「6」まで増えていきます。ちょうど1回転したあと、「6」まで表示すると、正常品であり、確認は終了です。



●リセット方法

確認をやり直したい場合は、アシストボタンの「▼」を押すと、リセットできます(L0に戻ります)。



●動作確認の終了

電源ボタンを操作すると、電源が切れ、動作確認が終了します。約10分間放置すると、オートオフシステムが働き、電源が自動で切れます。

「6」の表示が確認できれば正常品です。

未組み付け部品明細表

部品名 / 車種	ELE433 ELE633	ELD433 ELD633	部品名 / 車種	ELE433 ELE633	ELD433 ELD633
前どろよけ	1	1	スタンド	1	1
前車輪	1	1	ペダル	1セット	1セット
ドレスガード	1	1	ハンドルバー・ハンドルステム	1セット	1セット
セーフティーキャップ(サドルヤグラ用)	2	2	セーフティーキャップ(ハンドル用)	1	1
セーフティーキャップ(前ハブ軸用)	2	2	グリップ	1セット	1セット
ワイヤガイド類一式	1セット	1セット	スポークリフレクター	2	2
前キャリアブレーキ	1	1	ベル	1	1
前ブレーキワイヤ	1	1	ベルクランクセット	-	1セット
インナーワイヤキャップ	4	3	前車輪脱落防止金具	1	1
左・右ブレーキレバー	各1	各1	ハブナット・前ハブ座金	2	2
バスケット取り付け金具セット	1セット	1セット	スピードセンサー関連部品	1セット	1セット
バスケットステー	1	1	手元スイッチ	1	1
バスケット	1	1	ワイドLEDビームランプ	1	1
リヤキャリア・リヤキャリア取り付けねじセット	1セット	1セット	ライト取り付けねじセット	1セット	1セット
シフトグリップ	1	1			

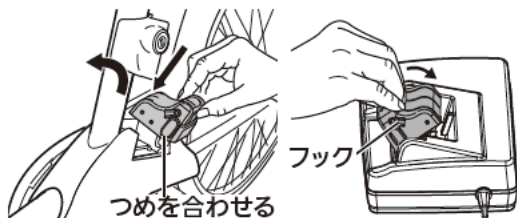
上記部品は梱包のために仮組み付けしている場合もありますので、取り付け状態や締め付けを必ず確認、調整してください。

端子カバーの使いかた

お客様にお伝えください。

お願い

- 長期間、自転車からバッテリーを取り外したままにする場合や充電器を使用にならないときは、汚れやほこりが付かないように、端子カバー(オプション品)を充電器の充電端子部にかぶせておくことをお勧めします。



※フックが引っかかるまで確実に押し込んでください。

お願い

- 保証書に必要な事項をご記入いただき、「取扱説明書」とともに必ずお客様にお渡しください。(キーの番号は保証書に印字されています。)
- 防犯登録が義務化されていることをご説明いただき、登録を行ってください。
- 組み立て後、バッテリーを満充電してください。
3か月以上の長期保存の場合、およびお客様に商品をお渡しする際にも、満充電をしてお渡しください。
- 組み立ての済んだ自転車は取扱説明書裏表紙の「点検・整備チェックリスト」にてチェックを行い、必ず実走によるブレーキテストを実施の上、お客様にお渡しください。※点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。

標準締めトルク一覧表

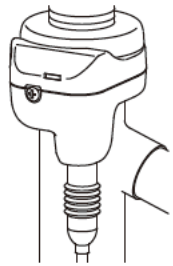
M3	(0.8~1.3)N・m	{(8~13)kgf・cm}
M5	(3~4.5)N・m	{(30~45)kgf・cm}
M6	(6.5~10)N・m	{(65~100)kgf・cm}

※本文中に締めトルクの記載が無いねじ締結部は、上の表に従って組み立てを行ってください。

パナソニック サイクルテック株式会社
〒582-8501 大阪府柏原市片山町13番13号

NYK2108 P1216-0

組立説明書 スタピタ



本紙ではスタピタの組立・調整方法について、説明しています。よくお読みのうえ、正しく組み立ていただきますようお願い申し上げます。

■スタピタの調整・確認



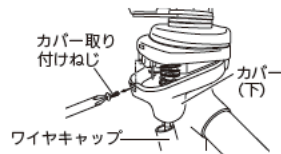
警告

■バンク修理やタイヤ・車輪交換などで
スタンドのスタピタワイヤを外したとき
は、必ずワイヤの調整状態を確認する
(走行中にハンドルがロックし、転倒による
けがのおそれ)

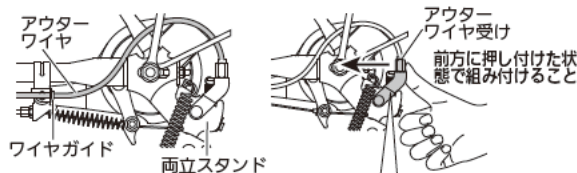


必ず守る

①ワイヤキャップを下にずらし、カ
バー(下)を固定しているカバ
ー取り付けねじを緩めて外します。



②スタンドを立てた状態でアウターワイヤをワイヤガイドに通し、両立スタン
ドのアウターワイヤ受けに挿入します。



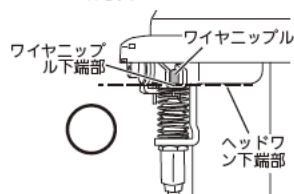
前方に
傾き



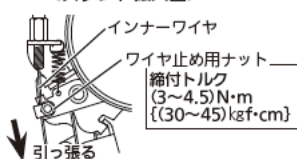
後方に
傾き

③ヘッドワンド下部とワイヤニップル
下部が一直線になるように、スタン
ド側のインナーワイヤを引っ張
り、ワイヤ止め用ナットを締め付け
て固定します。ワイヤ止め用ナット
を締め付け後、もう一度必ず車体
後方から見て、ヘッドワンド下部と
ワイヤニップル下部が一直線に
なっているか確認してください。

<車体後方から見た図>



<スタンド拡大図>



締めトルク
(3~4.5)N・m
{(30~45)kgf・cm}

引っ張りすぎ



警告

■スタピタワイヤを引っ張りすぎない

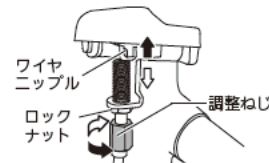
(走行中にハンドルがロックし、転倒によるけ
がのおそれ)

⇒ 必ず車体後方から見て、ヘッドワンド下部とワ
イヤニップル下部が一直線になっているか確認
してください。



禁止

④スタンドを数回作動してハンドルのロック及び解除がスムーズに作動する
か確認してください。スタンドを跳ね上げてロックを解除後、ハンドルに
引っ掛かり感があればインナーワイヤの引っ張りすぎです。調整ねじを黒
矢印(ワイヤが緩む)の方向に回して調整してください。



⑤調整ねじで調整しきれない場合はインナーワイヤを組み直してください。
調整後は必ずロックナットを締め付けてください。



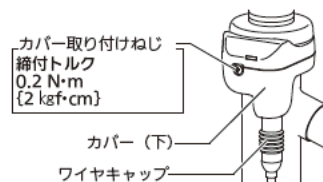
警告

■ロックナットは確実に締め付ける(調
整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれ)



必ず守る

⑥カバー(下)を組み付けてワイヤキャップを調整ねじに取り付けてください。
このときカバー取り付けねじの締めすぎに注意してください。



締めトルク
0.2 N・m
{2 kgf・cm}

⑦スタンド側の余分なインナーワイヤを切断し、インナーワイヤキャップをカシメてく
ださい。